

第1回ヤリタナゴ懇談会の記録

1. 日時 令和3年7月2日(火) 17:30～

2. 場所 藤岡北高校 ビオトープ・環境土木棟 2F CAD室
(受付後、ビオトープ見学)

1) 開会 17:30～

司会進行：新井 健司 (藤岡北高等学校)

2) 挨拶 県立藤岡北高等学校校長 綿貫 忠男様

藤岡市文化財保護課 櫻井 秀幸様

3) 参加者自己紹介 (参加者 31名、名簿別添)

4) 講演

・藤岡市のヤリタナゴの現状について 齊藤 裕也 (ヤリタナゴ調査会)

・藤岡市のヤリタナゴ保護活動 環境土木科 環境工学コース生徒 (資料別添)

5) 意見交換

○司会 (新井)：ヤリタナゴ等の現状を踏まえ、課題の解決策として、目的を「小川の未来を考える」として、ヤリタナゴ懇談会を創設した。

保護の現状は、ヤリタナゴを含む淡水魚の生息場所の減少、ヤリタナゴの知名度の低下、学校飼育校と飼育数の低下などがある。

課題としては、生息場所の保全及び維持管理、新たな生息場所の創出やヤリタナゴの名前浸透、環境保護のできる人材育成がある。

将来展望として、藤岡市において、ヤリタナゴ保護活動が上手くいき、環境保全や地域コミュニティが形成され、他の同じ問題を抱えている地域の先進事例となる可能性がある。皆さんが今まで積み上げてきた活動や成功の秘訣などの暗黙知の形式知化などをしたい。

○福田：情報の共有がなされてなくて問題が起きる場合があるので、今後はその様な事が無い様な体制が必要

○高橋：チノービオトープフォレストは藤岡市とヤリタナゴの保護に関する覚書を締結し、ビオトープを保護の場所として提供してきたが、市からヤリタナゴの供給がなくなり、現在は生息していない。また、締結当初のようにビオトープにヤリタナゴを泳がせたいと考えている。

○橋本：環境水路の工事は、専門家の意見を反映させて工事をしているか。

○中林：ほ場整備事業を所管している立場から、たいへん申し訳なく思う。

下戸塚地区の環境水路を確認したところ、景観には配慮したものの、(空積みでないことのほか、水深が確保できない水路断面になっていることなども含め) 魚類の生息には十分に配慮したものになっていなかった。

今後は、このような懇談会などを活用して、専門家の皆様の意見を反映させていきたい。

○常澤：やりたなごが再発見されて以来、地元の小学生と保護活動を続けてきたが、元々は農業用水に昔のようにメダカを泳がせたいと思ってやってきた。川の中には多くの生き物が生活しているので大切にしてほしい。

○掛川：先ほどの講演「ヤリタナゴの現状」では、来年改定される県レッドデータブックにヤリタナゴが野生絶滅ランクに入る可能性があることに触れられていませんが、そのことについて、ご説明いただきたい。

このことは、保護活動に協力してくれて来た市民や子供たちに何らかの説明をする必要がないか。

また「小川の未来を考える」の発表では、ヤリタナゴが減少した原因について、保護団体の高齢化による減少とされているが、その面もあるとは思いますが、主たる原因はほかにある。

○斉藤：野生絶滅については、現在検討されている。このことについての説明は、要望があれば行う。

○山田：ヤリタナゴの RDB 評価「野生絶滅」について

野生絶滅は「絶滅」という言葉を意識しやすいが、種が残っている点で大きく異なる。「野生絶滅」の定義は、人による飼育や本来の生息地以外のみで生存していることを言う。

現状、県内ではヤリタナゴが本来の生息地では消えてしまったため、野生絶滅と評価されたのだと思う。

生物多様性には3つのレベル（生態系・種・遺伝子）があり、藤岡のヤリタナゴは遺伝子の多様性を守っている。ヤリタナゴは他の地域にもいるが、群馬県内のヤリタナゴは藤岡しか残っていない。藤岡のヤリタナゴはまだ残っている。野生絶滅を悲観しないで保護を続けてほしい。

生息地が回復したら、野生絶滅からランクは戻るのか。野生絶滅から絶滅危惧に戻る例は少ないと思うが、例えばトキは一度野生絶滅となったが、中国からの繁殖個体の放鳥により、現在は絶滅危惧 IA 類になっている。藤岡のヤリタナゴも本来の生息地に戻ってくることができれば、絶滅危惧に戻る可能性がある。

○新井：ヤリタナゴ懇談会は、今後も続けていきたい。

次回は9月24日にチノービオトープで開催したいと思うが、チノーの高橋さん、いかがか。

○高橋：了解です。

*新型コロナウイルスに係る警戒度が上がったため延期し、10月20日に開催した。

訂正、修正、問い合わせはヤリタナゴ懇談会幹事会 掛川優子まで
Kakegawa2015@fg7.so-net.ne.jp

豊かな小川へ生徒意欲

藤岡北高



ヤリタナゴ保全で懇談会

藤岡

藤岡市の指定天然記念物「ヤリタナゴ」の保

全に向けた懇談会が2日、藤岡北高（綿貫忠男校長）で開かれた。同校環境工学コースの生徒ら計約30人が出席。生息の現状などに理解を深め、保全を進めることで一致した写真。

参加者は、生徒たちが3月に同校敷地内で

完成させたビオトープを見学。水が干上がらないよう水路に設けられた段差や、循環する設備などを確かめた。

ヤリタナゴ調査会の斉藤裕也さんが、生息や現状を解説した。

生徒たちは、保護団体の減少などで個体数が減っていったとされる経緯を説明した。「かつてのように豊かな小川の未来を創出した」と述べると、拍手が送られた。

（村山拓未）

ヤリタナゴ懇談会参加者名簿			
		2021年7月2日午後5:30～ 会場:県立藤岡北高等学校	
	所 属	氏 名(敬称略)	
1	県	西部農業事務所農村整備課	中林 静夫
2		藤岡土木事務所工務第一係	秋山 泰
3			山口 紘史
4		水産試験場水産環境係	新井 肇
5		林業試験場	山田 勝也
6		(藤岡森林事務所)	塚本 麗子
7	藤岡市	環境課環境企画係	江口 雅人
8		農政課農村整備係	川鍋 欣仙
9		文化財保護課文化財保護係	櫻井 秀幸
10			田野倉 武男
11	企業	(株)チノー	高橋 哲夫
12	漁協	烏川漁協協同組合	橋本 新一
13	報道	読売新聞	吉田 尚司
15		上毛新聞	村山 拓未
16	学校	前橋工科大学	森田 哲夫
17			松田 拓也
18			町野 香歩
19			井川 和輝
14			宮崎 友裕
20		藤岡中央高校	荒平 雅人
21		藤岡北高校	山口あかり
22			阿久沢翼
23			茂原 浩隆
24			富田 天梧
25			高津 裕人
26			吉田 雄河
27			高橋 令
28			新井 健司
29	高橋 一彰		
	石田希美子		
30	金子哲夫		
31	保護団体	旧笹川をきれいにする会	常澤 裕
32		ヤリタナゴを守る会	福田 耕一
33		ヤリタナゴ調査会	斉藤 裕也
34		やりたなごの会	掛川 優子